

11月3日（文化の日）は開館記念日！美術館と風土館は入館無料です！

深まる秋、今年の紅葉の色づきは大変見事でした。皆様冬支度はお済みでしょうか。本格的な冬の到来を前に、美術館でホッと一息つく時間をお過ごしください。

## 展覧会のお知らせ

### 常設展示

「小川原脩 自伝風な展覧会 定番作品展」

時を経ても新鮮な空気を醸し出す小川原脩の定番作品。それぞれの年代の代表的な作品を紹介しています。

会期：11月24日（月・祝）まで

「小川原脩 自伝風な展覧会 私の歩いてきた道」

会期：11月29日（土）～平成27年4月20日（月）

### 企画展示

「羽山 雅愉 展」

雨に濡れた路面に映り込む、港町の情景。作家の心象が生み出す柔らかな光の世界を、ぜひお楽しみください。

会期：11月24日（月・祝）まで

「渡辺洋一写真展—後方羊蹄山を滑る」

町内在住で日本を代表するスキー写真家・渡辺洋一さんの写真展。羊蹄山の新たな魅力をどうぞご覧ください。

会期：11月29日（土）～平成27年1月12日（月・祝）

### アート・イベントのお知らせ

#### 開館15周年記念 ロビー・コンサート

日時：11月22日（土）13時～14時 演奏：コンセール・アミ（テノール、ピアノ、バイオリン、クラリネット）会場：当館ロビー 料金：無料

#### 「ふるさとを描こう」最優秀賞に渡辺鉄兵君「ようてい山」決定

第7回小川原脩記念美術館絵画コンクール「ふるさとを描こう」には、管内13校の小学校から93点の応募作品がありました。最優秀賞には倶知安小学校4年生渡辺鉄兵君の「ようてい山」が選ばれました。倶知安町内の小学校からの入選者・団体（学校）賞は次のとおりです。

- \*最優秀賞／渡辺鉄兵（俱小4年）
- \*優秀賞／荒木宙（東小1年） 遠藤碧（北陽小2年） 木村萌香（北陽小4年） 藤森章大（西小6年）
- \*審査員特別賞／辻摩都華（北陽小1年） 下野莉鈴（北陽小2年） 渡辺優侑（北陽小6年）
- \*努力賞／三田彩葉（北陽小1年） 神田愛羽（北陽小6年）
- \*団体（学校）賞／北陽小学校

◎最優秀・優秀賞は11月3日（月）～10日（月）まで小川原脩記念美術館、12日（水）～19日（水）まで倶知安町文化福祉センター、22日（土）～30日（日）まで西村計雄美術館、12月6日（土）～14日（日）まで木田金次郎美術館で展示。

◎その他の全作品は11月20日（木）～12月14日（日）まで倶知安町文化福祉センターにて展示します。

## ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL [www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/](http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/)

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL [www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/kucchan-huudokan/](http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/kucchan-huudokan/)

開館時間は9時～17時  
（入館は16時30分）

11月の休館日

4、11、18、25～28日

木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

開館20周年

木田金次郎 アトリエからの再発見

会期：11月7日（金）

～平成27年3月29日（日）まで

平成の「生まれ出づる悩み」2014

会期：11月8日（土）～12月7日（日）

西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

開館15周年記念展

「西村計雄美術館 15年のあゆみ」

会期：開催中～平成27年2月22日（日）

トライアート「季節の和菓子づくり」に挑戦！

日時：11月8日（土）要申込

有島記念館 ☎ 0135-44-3245

「第26回有島武郎青少年公募絵画展」

会期：開催中～11月16日（日）

「荒川好夫写真展『北海道 冬』

～蒸気機関車C62栄光の記録～」

会期：開催中～平成27年2月22日（日）

海と山と田園と -ミュージアムロード情報-

## フリーマーケット開催

■日時／11月3日（月）

10時～14時（雨天中止）

■場所／倶知安風土館側前庭

（アプローチ）周囲

※今年最後の開催です。

## 町長室から

11月に入り、日を追うごとに寒さが増してきました。今年も羊蹄山の初冠雪が早く、9月17日には一度山頂が雪で白くなりました。これは平成になって以降最も早い記録です。残暑を感じずる暇もなく、秋も足早に過ぎようとしています。町民の皆さまも、冬に向けた準備をしっかりとしていただきたいと思います。

9月末より始まりましたまちづくり懇談会は、10月29日をもって全10回が終了しました。今年も多くの方にご出席いただき、普段なかなか聴くことができない町民の皆さまの声を聴くことができました。いただいたご意見・ご要望を今後の町政に活かしてまいりたいと思います。行政と町民が一体となつて倶知安町を発展させていくためにも、町民の皆さまのご意見はとても貴重なものです。懇談会の場に限らず、皆さまからのご意見は常時受け付けております。何かお気づきのことがございましたら、遠慮なく町までご連絡いただきたいと思います。

10月24日から11月9日にかけて、町の総合文化祭が開催されております。さまざまな団体が文化・芸術活動や作品を披露してください。文化や芸術に触れることは、老若男女を問わず心を豊かにしてくれます。一人でも多くの方に総合文化祭へ参加いただき、楽しんでいただきたいと思います。

福島世二

# 感動一点 の場

『雪の中の犬三匹』

1971年 小川原 脩 画

羊蹄のいただきに雪が降る。この季節、顔を合わせれば「今日は〇合目まで真っ白だね」というのがお決まりの挨拶となる。やがて雪はじわじわと山麓へと下り、小川原が云う「白い季節」の到来である。

小川原が雪を描いた作品には、犬や馬が登場する。積み上がった雪の、低くなった部分から揃って顔を出す三匹の野良犬。左右の二匹は目を見開いて、その澄んだ瞳をこちらへ向けている。ふわりと積もった雪に頬を置く仕草、ユーモラスな口元が、生き生きとした表情を見せている。それに対し、真ん中の一匹だけが、視線を落とし、こちら側の人間を拒んでいるかのようだ。おそらく、観る人はこの犬を自分と重ねて見るのではないだろうか。空と雪、犬だけの単純な画面。それがより一層犬たちの視線を強いものになっている。

今や野良犬の姿を見ることはなくなった。1970年代、これから姿を消す運命の彼らに、小川原は気持ちを寄り添わせたのだろう。



## ふる探訪 さと

380回

### —証拠の品々—

収蔵庫には40年以上にわたって町民の方々から寄せられた様々な生活道具類が保存されている。ほとんどが高度経済成長前に人々の生活を支えていた道具類だ。整理が行き届いていなかったため、これまで公開することができなかった。

これらの道具類は職人が手仕事で製作したもので、いかに我々の日々の生活が職人の技で支えられていたかを示す証拠の品々である。どこの家庭にもあったが、高度経済成長による大量生産・大量消費の流れによって我々の目の前から消えてしまった。我々の生活のあり方、つまり生活文化が根本から変わったからである。

講演会のために鎌倉から招いた講師は、これらの資料を一瞥し、ほとんどが本州以南から持ち込まれたこと、そして越前や越後（今の富山県、石川県）とのつながりが濃いことを指摘した。資料から経緯を読み取るのはパズルを解くようなもので、生産地が判れば流通や関わった人の姿が浮かび上がる。山陰で焼かれた古い貧乏



徳利や最上地方で編まれたカゴは、かつてこの地域が日本海側の流通を経て本州以南とつながっていたことを示し、瀬戸の酢徳利に「倶知安」と地名が大書された経緯には、問屋の動きが看取されるなど。

それにしても、ほんの半世紀で我々の生活はなんと大きく変化したことか。情けないのは、自分自身がその変化の中にいながら、このような文化の変容に対して全くと言っていいほど無自覚で、何の判断もなく他人事のように受け流してきてしまったことだ。モノの大量消費は、人の使い捨てに通じると指摘する人がいるが、この変化がこのまま進んで良いとはとても思えない。さて、どうすれば良いのだろうか？